

中央大學學則

中央大學學則 1931(昭和6)年3月

中央大學學則

第一章 總 則

第一條 大學ハ法學、經濟學、政治學、商學ニ關スル學術ノ理論及ヒ應用ヲ教授シ 竝其ノ蘊奥ヲ
攻究セシムルヲ以テ目的トス

第二條 大學ニ法學、經濟學、商學ノ三學部及ヒ大學院ヲ設ケ豫科ヲ附置ス

第三條 學部ハ晝間部、夜間部ノ二部ニ別ツ

豫科ハ晝間部、夜間部ノ二部ニ別テ晝間部ヲ第一豫科トシ夜間部ヲ第二豫科トス

第四條 學年ハ四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

第五條 休業日ハ左ノ通トス但シ必要アリト認ムルトキハ臨時休業スルコトアルヘシ

四月一日ヨリ十五日ニ至ル

七月十六日ヨリ九月十日ニ至ル

十二月二十六日ヨリ翌年一月七日ニ至ル

日曜日

大祭祝日

大學記念日(七月八日)

第六條 學部ニ所定ノ期間在學シ且其ノ配當科目全部ノ試験ニ合格シタル者ニハ卒業證書ヲ授與ス

轉學ニ因リテ學部ニ中途ニ入學シタル者ニシテ其ノ屬スル學年以後ノ所定ノ期間在學シ且其ノ配當科目ノ全部ノ試験ニ合格シタル者ハ前項ニ定メタル所定ノ期間在學シ且其ノ配當科目全部ノ試験ニ合格シタルモノト看做ス

第十條ノ規定ニ依リテ修學シタル隨意科目ノ試験ニ合格シタル者ニハ請求ニ依リ其ノ科目ノ合格證明書ヲ交付ス

第七條 學部ヲ卒業シ卒業證書ヲ授與セラレタル者ハ其ノ學部ニ從ヒ法學士、經濟學士、商學士ト稱スルコトヲ得

第二章 學部

第八條 學部ノ修學期間ヲ三學年トス

第一節 學科課程

第九條 各學部ノ學科課程、其ノ配當及ヒ授業時間數左ノ如シ

第一 法學部

必修科目	第一學年		第二學年		第三學年	
	科目	每週授業時間數	科目	每週授業時間數	科目	每週授業時間數
憲法	二	行政法各論	二	親族法	二	
行政法總論	二	物權法第二部	二	相續法	二	
民法總論	三	債權各論	三	保險法	二	
物權法第一部	二	商商法總論	二	海商法	二	
債權總論	三	商會社法	二	民事訴訟法第六編以下	二	
債權總論	三	手形法	二	民事訴訟法第六編以下	二	
刑法總論	三	民法	二	民事訴訟法第六編以下	二	

經濟史	四	貨幣論	二	交通政策	二
經濟地理	二	銀行論	二	社會政策	二
統計學	二	農業政策	二	財政學	四
植民政策	二	商業政策	二	政治學	二
第一外國語	二	政治社會史	四	經濟演習	二
		工業政策	二	第一外國語	二
		經濟演習	二		
		第一外國語	二		
選擇科目					
簿記學	二	國際公法	二	國際私法(共通法ヲ含ム)	二
經營學總論	二	信託論	二	會計學原論	二
哲學	二	應用簿記	二	國際金融論	二
社會學	二	經濟事情	二	證券取引及所論	二

行政法 二 景氣變動論 一 農村問題及論 二

刑法 三 市場論 二 第二外國語 二

第二外國語 二 第二外國語 二

選擇科目ハ學年ノ始ニ於テ三科目ヲ選擇シテ届出ツルコトヲ要ス

隨意科目

選擇科目中自己ノ選擇セサル科目及ヒ法學部又ハ商學部ノ各科目ハ第十條ニ依リ隨意科目トシテ修學スルコトヲ得

第三 商學部

第一學年	第二學年	第三學年
科目	科目	科目
必修科目		
憲法 二	民法 二	商法 二
民法 四	商法 二	保險學 二
科目	科目	科目
目	目	目
每週授業時間數	每週授業時間數	每週授業時間數

第二節 入學、休學、退學及ヒ除名

第十一條 入學ヲ許可スヘキ者左ノ如シ

一 豫科卒業者

二 高等學校高等科卒業者又ハ文部大臣ニ於テ之ト同等ノ學力アリト認メタル者

三 舊大學部卒業者及ヒ專門部卒業者但シ大正七年文部省令第三號第二條第二項ニ依リ指定セラレタル者ニ限ル

四 同等學校ノ豫科卒業者及ヒ專門學校卒業者但シ大正七年文部省令第三號第二條第二項ニ依リ指定セラレタル者ニ限ル

第十二條 同等學校ニ於テ第二學年以上ニ在學シ轉學スル者ハ相當ノ學年ニ編入スルコトヲ得但シ學科課程中他ノ大學ニ於テ修了セサル科目アルトキハ其ノ科目ニ限リ試験ヲ行フ

第十三條 入學ノ許可ヲ請フ者ハ入學申込書ニ履歷書ヲ添ヘ差出スヘシ但シ試験ヲ要スル場合ニハ同時ニ受験料金五圓ヲ納ムヘシ

第十四條 入學期ハ學年ノ始トス但シ第十二條第二十二條第二項又ハ第二十三條ノ規定ニ依リテ轉學又ハ再入學スル者ハ此ノ限ニ在ラス

第十五條 入學ノ許可ヲ得タルトキハ直ニ保證人ト連署シテ在學證ヲ差出スヘシ

第十六條 保證人ハ成年者ニシテ東京市又ハ其ノ隣接市町村内ニ於テ獨立ノ生計ヲ立ツルモノナルコトヲ要ス

保證人ハ本人在學中ニ係ル一切ノ事項ニ付其ノ責ニ任スヘキモノトス

第十七條 保證人死亡シ又ハ前條ノ要件ヲ缺キタルトキハ遲滯ナク之ヲ改定シ更ニ在學證ヲ差出スヘシ保證人ノ變更アリタルトキ亦同シ

保證人住所又ハ氏名ヲ變更シタルトキハ遲滯ナク其ノ旨ヲ届出ツヘシ

第十八條 疾病其ノ他止ムヲ得サル事故ニ因リ滿二箇月以上修學スルコト能ハサルトキハ其ノ事實ヲ證スル書面ヲ添附シ保證人連署ノ上其ノ許可ヲ受ケ當該學年間休學スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リテ休學シタル者休學ノ事由止ミタルトキハ保證人連署ノ上許可ヲ受ケ原級ニ入り修學スルコトヲ得

第十九條 給費生、貸費生ハ休學ノ月ヨリ其ノ資格ヲ失フ

第二十條 陸軍、海軍ノ現役ニ服スル者及ヒ召集中ノ者ハ其ノ期間第十八條ニ準シテ休學シ滿期後直ニ原級ニ復スルコトヲ得

第二十一條 疾病其ノ他ノ事故ニ因リ退學セントスル者ハ保證人連署ノ上届出ツヘシ

第二十二條 左ニ掲クル者ハ學籍ヨリ除名ス

一 學業劣等又ハ疾病其ノ他ノ事故ニ因リ成業ノ見込ナシト認メタル者

二 出席常ナラサル者

三 何等ノ事由ヲ以テスルニ拘ラス引續キ一個年間闕席シ又ハ正當ノ理由ナク一個月以上闕席シタル者

第二十三條ノ規定ハ前項ニ依リテ除名セラレタル者ニ之ヲ準用ス

第二十三條 第七十五條、第七十六條ノ規定ニ依リ退學處分ヲ受ケタル者四個月以上ヲ經過シ改悛ノ情顯著ナルモノト認メタルトキハ特ニ再入學ヲ許スコトアルヘシ

第三節 試 驗

第二十四條 試驗ハ學年ノ終又ハ授業ヲ終リタル際之ヲ行フ

必要アルトキハ追試驗及ヒ再試験ヲ行フ、追試験又ハ再試験ヲ受クル者ハ一科目ニ付受驗料金壹圓ヲ納ムヘシ、五科目以上ナルトキハ受驗料金五圓ヲ納ムヘシ

第二十五條 試験ノ方法ハ筆記又ハ口述トス

第二十六條 試験ノ成績ハ各科目ニ付甲、乙、丙ヲ以テ表示シ甲、乙ヲ合格トシ丙ヲ不合格トス

第二十七條 授業ヲ受ケタル科目ニ非サレハ試験ヲ受クルコトヲ得ス
休學シタル者ハ其ノ學年ニ屬スル試験ヲ受クルコトヲ得ス但シ第二十條ニ定メタル休學者ハ此ノ限ニ在ラス

第十八條第二項ニ該當スル者ハ其ノ休學取消ノ承認ヲ得テ試験ヲ受クルコトヲ得

第二十八條 或科目ニ付三箇年以内ニ試験ニ合格セサル者ハ全部合格ニ至ルマテ在學スルコトヲ得但シ六箇年ヲ超ユルコトヲ得ス、試験ヲ受ケスシテ在學スル者亦同シ

在學六箇年ニ滿ツル者其ノ最後ノ學年試験ノ追試験又ハ再試験ヲ受ケムトスルトキハ許可ヲ受ケ前項但書ノ規定ニ拘ラス其ノ追試験又ハ再試験ノ施行ヲ終ル迄ノ期間在學スルコトヲ得

第十二條ノ規定ニ依リテ入學シタル者ニ付テハ其ノ入學シタル日ニ至ル迄ニ要スヘカリシ期間在學シタルモノトシテ其ノ在學期間ヲ計算ス

第二十二條又ハ第二十三條ノ規定ニ依リテ再入學シタル者ニ付テハ其ノ除名中又ハ退學中ニ屬スル期間ヲ其ノ在學期間ニ通算ス但シ學年ノ始ニ於テ第一學年ニ入學シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十九條 隨意科目ノ試験ハ希望アル場合ニ限り之ヲ行フ

第三十條 試験ハ授業料ヲ完納シ且必要ナル受驗料ヲ納付シタル者ニ非サレハ之ヲ受クルコトヲ得ス

第四節 學 費

第三十一條 入學ヲ許可セラレタル者ハ入學料トシテ金五圓ヲ納ムヘシ

第三十二條 授業料ハ一學年金百拾圓トシ左ノ三期ニ之ヲ納ムヘシ但シ特別ノ事情アル者ニ限リ月額金拾圓宛ノ分納ヲ許スコトアルヘシ

第一期 四月(金四十圓)

第二期 九月(金四十圓)

第三期 一月(金三十圓)

第三十三條 學年ノ中途ニ入學シ又ハ退學スル者ハ特ニ入學前及ヒ退學後ノ授業料ヲ免除ス休學中ハ授業料ヲ免除ス

第三十四條 在學中ハ關席シタルトキト雖モ授業料ヲ免除セス

第三十五條 納付シタル授業料ハ返付セス

第三章 大學院

第三十六條 入學期ハ學年ノ始トス但シ時宜ニ因リ臨時入學ヲ許スコトアルヘシ

第三十七條 大學卒業者ニシテ大學院ニ入ラント欲スルモノハ特ニ研究事項ヲ具シ其ノ許可ヲ受クヘシ

大學卒業者ニ非スシテ大學院ニ入ラント欲スルモノハ前項ノ入學願書ニ學業履歷書ヲ添附シ當該學部ノ檢定ヲ受ケ合格スルコトヲ要ス此ノ場合ニ於テハ檢定料トシテ金十圓ヲ納ムヘシ

第三十八條 學長ハ學生ヲ指導スル教員ヲ選定スヘシ

第三十九條 學長ハ學生ノ爲メ特ニ講義ヲ開キ特別研究ヲ爲サシムルコトアルヘシ

學長ノ許可ヲ受ケ學生ハ各學部ノ講義演習等ニ出席スルコトヲ得

第四十條 學生ハ學年ノ終ニ於テ其ノ攻究ノ狀況及ヒ成績ヲ記載シタル報告書ヲ指導教員ヲ經テ學長ニ差出スヘシ

第四十一條 二年以上修學シタル者ハ其ノ攻究シタル學課ニ付卒業論文ヲ提出シテ學位ヲ請求スルコトヲ得

第四十二條 學生ハ攻究料トシテ學年ノ始又ハ入學ノ際ニ於テ一學年金六十六圓ヲ納ムヘシ

第四十三條 學長ハ學生中學力優秀心身健全ナル者ヲ銓衡シ特選給費學生ト爲スコトヲ得

特選給費學生ニハ二年以内月額金三十圓以上金七十五圓以内ノ學費ヲ給與ス但シ學長ニ於テ特ニ必要アリト認ムルトキハ年限ヲ延長スルコトヲ得

特選給費學生ハ學長ノ許可ヲ得スシテ他ノ業務ニ就クコトヲ得ス

學長ハ特選給費學生其ノ地位ニ適セサル事實アリト認ムルトキハ之ヲ免スルコトヲ得

特選給費學生ニハ第四十二條ノ規定ヲ適用セス

第四十四條 第十五條乃至第二十三條第三十三條第一項及ヒ第三十五條ノ規定ハ之ヲ大學院學生ニ準用ス

第四章 豫科

第四十五條 第一豫科ノ修學期間ヲ三學年トシ第二豫科ノ修學期間ヲ二學年トス
豫科ヲ卒業シタル者ニハ卒業證書ヲ授與ス

第一節 學科課程

第四十六條 豫科ノ學科課程、其ノ配當及ヒ授業時間數左ノ如シ

第一豫科

第一學年	第二學年	第三學年
國語、漢文 一〇	國語、漢文 一〇	國語、漢文 一〇
倫理 一	倫理 一	倫理 一
科目 一	科目 一	科目 一
每週授業時間數	每週授業時間數	每週授業時間數

第二外國語(佛、英、獨)	第二外國語(佛、英、獨)	第二外國語(佛、英、獨)
歷史 三	歷史 四	歷史 二
地理 二	哲學概說 二	哲學概說 二
數學 二	心理學 二	心理學 二
自然科學 二	法學、經濟 四	法學、經濟 四
自然科學 二	自然科學 二	自然科學 二
體操 二	體操 二	體操 二

第二外國語ハ隨意科目トス

第二豫科

第一學年	第二學年
國語、漢文 五	國語、漢文 五
倫理 一	倫理 一
科目 一	科目 一
每週授業時間數	每週授業時間數

第一外國語(英獨)	一〇	第一外國語(英獨)	一〇
第二外國語(英獨)	(二)	第二外國語(英獨)	(二)
歷史	四	歷史	二
心理、論	二	哲學概說	二
數學	二	心理、論	二
自然科學	二	法、制、經濟	四
體操	二	體操	二

第二外國語ハ隨意科目トス

第二節 入學、休學、退學及ヒ除名

第四十七條 入學ヲ許可スヘキ者左ノ如シ但シ外國人ニシテ之ニ相當スル學歷ヲ有スル者ハ第一豫科ニアリテハ中學校四學年終了程度第二豫科ニアリテハ中學校卒業程度ノ試験檢定ノ上之ヲ許可ス

第一豫科

- 一 中學校四學年修了者
- 二 高等學校尋常科修了者
- 三 高等學校高等科入學資格試験合格者
- 四 專門學校入學者檢定規程ニ依ル試験檢定合格者
- 五 文部大臣ニ於テ高等學校高等科ノ入學ニ關シ檢定シタル者
- 六 文部大臣ニ於テ專門學校入學ニ關シ中學校卒業者ト同等以上ノ學力アリト指定シタル者

第二豫科

- 一 中學校卒業者
 - 二 專門學校入學者檢定規程ニ依ル試験檢定合格者
 - 三 文部大臣ニ於テ專門學校入學ニ關シ中學校卒業者ト同等以上ノ學力アリト指定シタル者
- 第四十八條 左ノ各號ノ一ニ該當シ第一豫科第一學年科目ノ試験ニ合格シタル者ハ第一豫科第二學年ニ入學スルコトヲ得

- 一 中學校卒業者
- 二 高等學校高等科一學年修了者
- 三 專門學校入學者檢定規程ニ依ル試験檢定合格者
- 四 文部大臣ニ於テ專門學校入學ニ關シ中學校卒業者ト同等以上ノ學力アリト指定シタル者

第四十九條 入學期ハ學年ノ始トス但シ補缺トシテ臨時入學ヲ許スコトアルヘシ
第五十條 第十二條乃至第二十三條ノ規定ハ之ヲ豫科學生ニ準用ス

第三節 試 驗

第五十一條 試驗ハ學年ノ終又ハ臨時之ヲ行フ
必要アルトキハ追試驗及ヒ再試験ヲ行フ追試験又ハ再試験ヲ受クル者ハ一科目ニ付受驗料金一圓ヲ納ムヘシ五科目以上ナルトキハ受驗料金五圓ヲ納ムヘシ
第五十二條 試驗ノ成績ハ各科目ニ付優、良、可、不可ヲ以テ表示シ優、良、可ヲ合格トシ不可ヲ不合格トス
第五十三條 配當科目ノ全部ニ合格スルニ非サレハ進級スルコトヲ得ス
不合格ノ科目總科目ノ三分ノ一ニ達セサルトキハ教員會ノ銓衡ニ依リ前項ノ規定ニ拘ラス假ニ進級セシムルコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テハ不合格ノ科目ニ付再試験ヲ受ケ合格スルコトヲ要ス
引續キ二回進級セサル者ハ退學ヲ命スルコトアルヘシ

第四節 學 費

第五十四條 入學ヲ許可セラレタル者ハ入學料トシテ金五圓ヲ納ムヘシ
第五十五條 授業料ハ一學年金百圓トス左ノ三期ニ之ヲ納ムヘシ但シ特別ノ事情アル者ニ限り最初ノ月ニ在リテハ金十圓其ノ他ノ月ニ在リテハ金九圓宛ノ分納ヲ許スコトアルヘシ
第一期 四月(金三十五圓)
第二期 九月(金三十五圓)
第三期 一月(金三十圓)
第五十六條 第三十條及ヒ第三十三條乃至第三十五條ノ規定ハ之ヲ豫科學生ニ適用ス

第五章 給費生及ヒ特待生

第五十七條 學長ハ大學及ヒ豫科學生中學術優等品行方正ナル者ヲ銓衡シ給費生又ハ特待生ト爲スコトヲ得
第五十八條 給費生ニハ當該學年間額金三百圓以内ノ學資ヲ給與シ特待生ニハ當該學年間授業料ヲ免除ス
第五十九條 給費生又ハ特待生ニシテ其ノ地位ニ適セサル事實アルトキハ直ニ之ヲ免ス

第六章 貸費生及ヒ留學生

第六十條 學長ハ大學及ヒ豫科學生中學術優等品行方正ニシテ學資支辨ノ途ナキモノヲ銓衡シ貸費生トシテ當該學年額金三百圓以内ヲ貸與スルコトヲ得

第六十一條 貸費ニ關シ寄附者アルトキハ其ノ寄附者ノ指定ニ從フ

第六十二條 貸費生タラントスル者ハ其ノ事情ヲ具シタル願書ヲ差出スヘシ

第六十三條 貸費生タルノ許可ヲ得タル者ハ保證人二名ト連署シテ所定ノ證書ヲ差入ルヘシ

第六十四條 貸費生ニシテ卒業シタル者ハ卒業後一箇年日ヨリ毎月貸費ヲ受ケタル半額以上ヲ月賦ヲ以テ返納スヘシ

第六十五條 貸費生ニシテ其ノ地位ニ適セサル事實アルトキハ直ニ之ヲ免ス

第六十六條 貸費生退學ヲ命セラレ、除名セラレ、貸費ヲ免セラレ又ハ退學シタルトキハ貸與金額ヲ即時ニ返納スヘシ但シ疾病ノ爲メ廢學シタル場合ニハ情狀ニ因リ月賦返納ヲ許スコトアルヘシ

第六十七條 學長ハ卒業者中學力優秀ニシテ將來學術ノ蘊奧ヲ攻究セント欲スル者ヲ銓衡シ特ニ留學生トシテ學資ヲ貸與シ留學セシムルコトヲ得
留學生ニ關スル事項ハ其ノ都度之ヲ定ム

第七章 學生心得

第六十八條 登校スルトキハ必ス制服制帽洋服若クハ袴ヲ着ケ靴又ハ上草履ヲ用フヘシ
第六十九條 登校スルトキハ必ス學生證ヲ携帯スヘシ之ヲ携帯セサルトキハ退場ヲ命スルコトアルヘシ

第七十條 教場ニ於テハ靜肅ヲ旨トシ雜談、喫煙其ノ他粗暴ノ舉動アルヘカラス
第七十一條 授業中ハ退席スルコトヲ得ス、止ムヲ得サル事故アリテ退席セントスルトキハ教員ノ許可ヲ受クヘシ

第七十二條 氏名ヲ改稱シ又ハ本籍住居等ヲ移轉シタルトキハ遲滞ナク届出ツヘシ

第七十三條 三日以上關席セントスルトキハ必ス其ノ事由ヲ具シ保證人ト連署シテ届出ツヘシ但シ七日以上關席スルトキハ證明書ヲ添附スルコトヲ要ス

第七十四條 關席届出ノ日數ハ一個月ヲ超ユルヲ得ス若シ一個月ヲ超エ事由仍ホ止マサルトキハ其ノ都度必ス新ニ届出ヲ爲スコトヲ要ス

第八章 懲 戒

第七十五條 學則又ハ校規ニ違反シ其ノ他不都合ノ行爲アル者ハ情狀ニ因リ停學又ハ退學ヲ命ス

第一項ノ規定ニ依リテ退學ヲ命シタルトキハ其ノ旨ヲ同等學校ニ通知ス

第七十六條 品行不良改悛ノ見込ナキ者ハ退學ヲ命ス

第七十七條 前二條ノ規定ニ依リ停學又ハ退學ヲ命シタルトキハ其ノ旨ヲ父兄及ヒ保證人ニ通知ス

附則

- 一 本則ハ昭和六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
- 一 本則施行ノ際現ニ存スル第二學年及ヒ第三學年ノ學科課程、其ノ配當及ヒ授業時間數ハ其ノ第二學年ニ屬スル學生ノ卒業スヘキ學年試驗ヲ終ル迄仍ホ從前ノ規定ニ依ル
- 一 學部ノ第一學年又ハ第二學年ノ學生中昭和六年ニ施行シタル學年試驗ニ於テ從前ノ規定第二十八條ニ依リ次ノ學年ノ試驗ヲ受クルコトヲ得サルニ至リタル者ト雖モ本則施行後ニ於テハ次ノ學年ノ試驗ヲ受クルコトヲ得但シ其ノ合格セザリシ科目ニ付テハ試驗ヲ免除スルノ限ニ在ラス

中央大學專門部學則

第一章 總則

- 第一條 大學ニ專門部ヲ置ク專門部ハ法學、經濟學、政治學、商學ニ關スル學術ノ理論及ヒ應用ヲ教授スルヲ以テ目的トス
- 第二條 專門部ニ法學、經濟學、商學ノ三學科ヲ置キ學生ヲ正科生及ヒ別科生ノ二種ニ別ツ
- 第三條 學年ハ四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル
- 第四條 休業日ハ左ノ通トス但シ必要アリト認ムルトキハ臨時休業スルコトアルヘシ
 - 四月一日ヨリ十五日ニ至ル
 - 七月十六日ヨリ九月十日ニ至ル
 - 十二月二十六日ヨリ翌年一月七日ニ至ル
- 日曜日
- 大祭祝日
- 大學記念日(七月八日)
- 第五條 專門部ニ所定ノ期間在學シ且其ノ配當科目全部ノ試験ニ合格シタル者ニハ卒業證書ヲ授

與ス

轉學其ノ他ニ因リテ中途ニ入學シタル者ニシテ其ノ屬スル學年以後ノ所定ノ期間在學シ且其ノ配當科目ノ全部ノ試験ニ合格シタル者ハ前項ニ定メタル所定ノ期間在學シ且其ノ配當科目全部ノ試験ニ合格シタルモノト看做ス

第二十七條ニ定メタル試験ニ合格シタル者ニハ請求ニ依リ其ノ科目ノ合格證明書ヲ交付ス

第六條 各學科ノ修學期間ヲ三學年トス

第二章 專門部

第一節 學科課程

第七條 各學科ノ學科課程、其ノ配當及ビ授業時間數左ノ如シ

第一法學科

法學通論	必修科目	第一學年		第二學年		第三學年	
		科目	時間數	科目	時間數	科目	時間數
二	行政法各論	二	二	親族法	二	二	二

法學通論	選擇科目	第一學年		第二學年		第三學年	
		科目	時間數	科目	時間數	科目	時間數
二	憲法	二	二	行政法各論	二	二	二
二	行政法總論	二	二	債權法各論	三	二	二
二	民法總論	三	二	刑法各論	二	二	二
二	民法第一部	二	二	民法總論	二	二	二
二	債權法總論	三	二	海商法	二	二	二
二	債權法總論	三	二	民事訴訟法第一編以下	二	二	二
二	刑法總論	三	二	民事訴訟法第二編	二	二	二
二	刑法總論	三	二	刑訴法第五編	二	二	二
二	論理、心理學	二	二	刑訴法	三	二	二
二	倫理	二	二	哲學概論	二	二	二
二	外國語	六	二	外國語	二	四	二
二	國際公法	二	二	國際公法	二	二	二
二	法律史	二	二	法律史	二	二	二
二	法律哲學	二	二	法律哲學	二	二	二

社會學	二	法	制	史	二	國 際 法 ヲ 含 ム	二
破 產 法 ヲ 含 ム	二	財 政 學	二	獨語又ハ佛語	二	獨語又ハ佛語	二
選擇科目ハ學年ノ始ニ於テ第一學年第二學年ハ二科目、第三學年ハ二科目ヲ選擇シテ届出ツルコトヲ要ス							
隨意科目							
獨語又ハ佛語							
選擇科目中自己ノ選擇セサル科目及ヒ經濟學科又ハ商學科ノ各科目ハ隨意科目トシテ修學スルコトヲ得							

第二 經濟學科

第一學年	第二學年	第三學年
必修科目	必修科目	必修科目
法學通論	民法	商法
二	二	二
科目	科目	科目
目	目	目
時間數	時間數	時間數
二	二	二
法	法	法
二	二	二
商	商	商
法	法	法
四	四	四

憲法	民法	行政法	民法	經濟原論	經濟地史	經濟地理	統計學	植民政策	簿記學	社會學	論理、心理	英語	隨意科目
二	二	二	四	二	二	二	二	二	二	二	二	六	二
商	國	際	公	法	幣	論	論	論	論	論	論	論	論
法	法	法	法	論	論	論	論	論	論	論	論	論	論
二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	六	二
國 際 私 法	保 險 學	交 通 政 策	社 會 政 策	財 政 學	政 治 學	會 計 學	會 計 學	市 場 論	證 券 及 證 券 取 引 所 論	哲 學 概 論	英 語	英 語	英 語
二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	四	四	二

第二節 入學、休學、退學及ヒ除名

第八條 入學ヲ許可スヘキ者ハ年齢十七年以上ノ男子トス

正科生ノ入學資格左ノ如シ但シ外國人ニシテ之ニ相當スル學歷ヲ有スル者ハ中學校卒業程度ノ試験檢定ノ上之ヲ許可ス

- 一 中學校卒業者
- 二 専門學校入學者檢定規程ニ依リ試験檢定合格證書ヲ有スル者
- 三 文部大臣ニ於テ専門學校ノ入學ニ關シ中學校卒業者ト同等以上ノ學力ヲ有スルモノト指定シタル者

別科生ハ志願者ノ履歷ニ就キ詮衡ノ上入學ヲ許可ス但シ國語、漢文、數學又ハ英語ノ全部又ハ一部ニ付キ試験ヲ行フコトアルヘシ

第九條 第二學年以上ニ入學スルニハ前條ノ資格ヲ有シ且第一學年又ハ第二學年ノ配當科目ノ試験ニ合格スルコトヲ要ス但シ受験料ハ金五圓トス

第十條 同等學校ニ於テ第二學年以上ニ在學シ轉學スル者ハ相當ノ學年ニ編入スルコトヲ得但シ學科課程中他校ニ於テ修了セサル科目アルトキハ其ノ科目ニ限リ試験ヲ行フヘシ

第十一條 入學ノ許可ヲ請フ者ハ入學申込書ニ履歷書ヲ添ヘ差出スヘシ但シ試験ヲ要スル場合ニ

ハ同時ニ受験料金三圓ヲ納ムヘシ

第十二條 正科生ノ入學期ハ學年ノ始トス但シ第十條、第二十條第二項又ハ第二十一條ノ規定ニ依リテ轉學又ハ再入學スル者ハ此ノ限ニ在ラズ

別科生ノ入學期ハ學年ノ始トス但シ同時入學ヲ許スコトアルヘシ

第十三條 入學ノ許可ヲ得タルトキハ直ニ保證人ト連署シテ在學證ヲ差出スヘシ

第十四條 保證人ハ成年者ニシテ東京市又ハ其ノ隣接市町村内ニ於テ獨立ノ生計ヲ立ツルモノナルコトヲ要ス

保證人ハ本人在學中ニ係ル一切ノ事項ニ付其ノ責ニ任スヘキモノトス

第十五條 保證人死亡シ又ハ前條ノ要件ヲ缺キタルトキハ遲滞ナク之ヲ改定シ更ニ在學證ヲ差出スヘシ保證人ノ變更アリタルトキ亦同シ

保證人住所又ハ氏名ヲ變更シタルトキハ遲滞ナク其ノ旨ヲ届出ツヘシ

第十六條 疾病其ノ他止ムヲ得サル事故ニ因リ滿二個月以上修學スルコト能ハサルトキハ其ノ事實ヲ證スル書面ヲ添附シ保證人連署ノ上其ノ許可ヲ受ケ當該學年間休學スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リテ休學シタル者休學ノ事由止ミタルトキハ保證人連署ノ上許可ヲ受ケ原級ニ入り修學スルコトヲ得

第十七條 給費生、貸費生ハ休學ノ月ヨリ其ノ資格ヲ失フ

第十八條 陸軍、海軍ノ現役ニ服スル者及ヒ召集中ノ者ハ其ノ期間第十六條ニ準シテ休學シ滿期後直ニ原級ニ復スルコトヲ得

第十九條 疾病其ノ他ノ事故ニ因リ退學セントスル者ハ保證人連署ノ上届出ツヘシ

第二十條 左ニ掲クル者ハ學籍ヨリ除名ス

- 一 學業劣等又ハ疾病其ノ他ノ事故ニ因リ成業ノ見込ナシト認メタル者
- 二 出席常ナラサル者
- 三 何等ノ事由ヲ以テスルニ拘ラス引續キ一個年間闕席シ又ハ正當ノ事由ナク一個月以上闕席シタル者

第二十一條ノ規定ハ前項ニ依リテ除名セラレタル者ニ之ヲ準用ス

第二十一條 第六十五條又ハ第六十六條ノ規定ニ依リ退學處分ヲ受ケタル者四個月以上ヲ經過シ改悛ノ情顯著ナルモノト認メタルトキハ持ニ再入學ヲ許スコトアルヘシ

第二節 試 驗

第二十二條 試験ハ學年ノ終又ハ授業ヲ終リタル際之ヲ行フ

必要アルトキハ追試験及ヒ再試験ヲ行フ、追試験又ハ再試験ヲ受クル者ハ一科目ニ付受験料金一圓ヲ納ムヘシ、五科目以上ナルトキハ受験料金五圓ヲ納ムヘシ

第二十三條 試験ノ方法ハ筆記又ハ口述トス

第二十四條 試験ノ成績ハ各科目ニ付甲、乙、丙ヲ以テ表示シ甲、乙ヲ合格トシ丙ヲ不合格トス

第二十五條 授業ヲ受ケタル科目ニアラサレハ試験ヲ受クルコトヲ得ス

休學シタル者ハ其ノ學年ニ屬スル試験ヲ受クルコトヲ得ス但シ第十八條ニ定メタル休學者ハ此ノ限ニ在ラス

第十六條第二項ニ該當スル者ハ其ノ休學取消ノ承認ヲ得テ試験ヲ受クルコトヲ得

第二十六條 或ル科目ニ付三箇年内ニ試験ニ合格セサル者ハ全部合格ニ至ル迄在學スルコトヲ得但シ六箇年ヲ超ユルコトヲ得ス、試験ヲ受ケシテ在學スル者亦同シ

在學六箇年ニ滿ツル者其ノ最後ノ學年試験ノ追試験又ハ再試験ヲ受ケントスルトキハ許可ヲ受ケ前項但書ノ規定ニ拘ラス其ノ追試験又ハ再試験ノ施行ヲ終ル迄ノ期間在學スルコトヲ得

第十二條ノ規定ニ依リテ入學シタル者ニ付テハ其ノ入學シタル日ニ至ル迄ニ要スヘカリシ期間在學シタルモノトシテ其ノ在學期間ヲ計算ス

第二十條又ハ第二十一條ノ規定ニ依リテ再入學シタル者ニ付テハ其ノ除名中又ハ退學中ニ屬スル期間ヲ其ノ在學期間ニ通算ス但シ學年ノ始ニ於テ第一學年ニ入學シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十七條 隨意科目ノ試験ハ希望アル場合ニ限り之ヲ行フ

學年ノ始ニ於テ許可ヲ受ケ隨意科目ヲ修學シタル者ニアラサレハ前項ノ試験ヲ受クルコトヲ得
ス
第二十八條 試験ハ授業料ヲ完納シ且必要ナル受験料ヲ納付シタル者ニアラサレハ之ヲ受クルコ
トヲ得ス

第四節 學 費

第二十九條 入學ヲ許可セラレタル者ハ入學料トシテ金三圓ヲ納ムヘシ
第三十條 授業料ハ一學年金七十七圓トシ左ノ三期ニ之ヲ納ムヘシ但シ當分月割金七圓宛分納ス
ルヲ妨ケス

- 第一期 四 月(金三十圓)
- 第二期 九 月(金三十圓)
- 第三期 一 月(金十七圓)

第三十一條 學年ノ中途ニ入學シ又ハ退學スル者ハ特ニ入學前及ヒ退學後ノ 授業料ヲ 免除ス休學
中ハ 授業料ヲ 免除ス
第三十二條 在學中ハ 闕席シタルトキト雖モ 授業料ヲ 免除セス
第三十三條 授業料ヲ 月割分納スル者ハ翌月分ヲ前月末日迄ニ納付スヘシ

第三十四條 納付シタル 授業料ハ 返付セス

第五節 給費生及ヒ特待生

第三十五條 學長ハ學生中學術優等品行方正ナル者ヲ銓衡シ給費生又ハ特待生ト爲スコトヲ得
第三十六條 給費生ニハ當該學年額金三百圓以内ノ學資ヲ給與シ 特待生ニハ當該學年間 授業
料ヲ免除ス

第三十七條 給費生又ハ特待生ニシテ其ノ地位ニ適セサル事實アルトキハ直ニ之ヲ免ス

第六節 貸費生及ヒ留學生

第三十八條 學長ハ學生中學術優秀品行方正ニシテ學資支辨ノ途ナキ者ヲ銓衡シ貸費生トシテ當
該學年間額金三百圓以内ヲ貸與スルコトヲ得
第三十九條 貸費ニ關シ寄附者アルトキハ其ノ寄附者ノ指定ニ從フ
第四十條 貸費生タラントスル者ハ其ノ事情ヲ具シタル願書ヲ差出スヘシ
第四十一條 貸費生タルノ許可ヲ得タル者ハ保證人二名ト連署シテ所定ノ證書ヲ差入ルヘシ
第四十二條 貸費生ニシテ卒業シタル者ハ卒業後一個年目ヨリ毎月貸費ヲ受ケタル半額以上ヲ月
賦ヲ以テ返納スヘシ

第四十三條 貸費生ニシテ其ノ地位ニ適セサル事實アルトキハ直ニ之ヲ免ス

第四十四條 貸費生退學ヲ命セラレ、除名セラレ、貸費ヲ免セラレ又ハ退學シタルトキハ貸與金額ヲ即時ニ返納スヘシ但シ疾病ノ爲メ廢學シタル場合ニハ情狀ニ依リ月賦返納ヲ許スコトアルヘシ

第四十五條 學長ハ卒業者中學力優秀ニシテ將來學術ノ蘊奧ヲ研究セント欲スル者ヲ銓衡シ特ニ留學生トシテ學資ヲ貸與シ留學セシムルコトヲ得

留學生ニ關スル事項ハ其ノ都度之ヲ定ム

第三章 研究科

第四十六條 研究科ハ専門部ノ卒業者ニシテ既修ノ學科ニ付尚ホ深遠ナル研究ヲ爲サント欲スル者ノ爲メニ之ヲ設ク

第四十七條 研究科ノ修業科目ハ左ノ十一科トシ各自志望ノ科目ヲ專攻セシム

憲法 行政法 刑法 民法 商法 訴訟法 國際法 政治學

經濟學 財政學 商業學

第四十八條 修業年限ハ一年以上三年トス

第四十九條 入學期ハ學年ノ始トス但シ臨時入學ヲ許スコトアルヘシ

第五十條 研究科ハ専門部、舊英吉利法律學校、舊東京法學院又ハ舊東京法學院大學ノ卒業者ニシテ學長ノ承認ヲ經タル者ニ限り入學ヲ許ス但シ同等學校卒業者又ハ之ト同等ノ學力アル者ニ入學ヲ許スコトアルヘシ

第五十一條 専門部正科ヲ卒業シタル者ヲ正科生トシ其ノ他ヲ別科生トス

第五十二條 第十一條及ヒ第十三條乃至第二十一條ノ規定ハ之ヲ研究科學生ニ準用ス

第五十三條 研究科ノ授業料ハ一個年金三十三圓トス學年ノ始又ハ入學ノ際一時ニ之ヲ納ムヘシ

第三十條但書及ヒ第三十一條乃至第三十四條ノ規定ハ之ヲ前項ノ授業料ニ準用ス

第五十四條 研究科學生ハ特ニ開ク講義ヲ聽聞スルノ外本大學ノ指定セル指導者ニ從ヒ專攻ノ學科ヲ研究スルモノトス

研究科學生ハ任意ニ一般學生ノ爲ニスル講義ヲ聽聞スルコトヲ得

第五十五條 研究科ノ卒業試験ハ論文試問トス但シ場合ニ依リ更ニ口述試問ヲ爲スコトアルヘシ卒業論文ハ二人以上ノ指導者之ヲ批判ス

落第者ハ更ニ一年以上修業ノ後再ヒ試験ニ應スルコトヲ得

第五十六條 研究科ノ卒業試験ニ應セントスル者ハ受験料金十圓ヲ納ムヘシ

第二十八條ノ規定ハ前項ノ試験ニ之ヲ準用ス

第五十七條 研究科ノ試験ニ合格シ法學科ヲ卒業シタル正科生ハ中央大學専門部法學士ト稱シ經

濟學科ヲ卒業シタル正科生ハ中央大學專門部經濟學士ト稱シ商學科ヲ卒業シタル正科生ハ中央大學專門部商學士ト稱スルコトヲ得

第四章 學生心得

第五十八條 登校スルトキハ必ス制服制帽、洋服若クハ袴ヲ著ケ靴又ハ上草履ヲ用ウヘシ
第五十九條 登校スルトキハ必ス學生證ヲ携帯スヘシ之ヲ携帯セサルトキハ退場ヲ命スルコトアルヘシ

第六十條 教場ニ於テハ靜肅ヲ旨トシ雜談、喫煙其ノ他粗暴ノ舉動アルヘカラス

第六十一條 授業中ハ退席スルコトヲ得ス止ムヲ得サル事故アリテ退席セントスルトキハ教員ノ許可ヲ受クヘシ

第六十二條 氏名ヲ改稱シ又ハ本籍住居等ヲ移轉シタルトキハ遲滞ナク届出ツヘシ

第六十三條 三日以上闕席セントスルトキハ必ス其ノ事由ヲ具シ保證人ト連署シテ届出ツヘシ但シ七日以上闕席スルトキハ證明書ヲ添附スルコトヲ要ス

第六十四條 闕席届出ノ日數ハ一個月ヲ超ユルヲ得ス若シ一個月ヲ超ユル事由尙ホ止マサルトキハ其ノ都度必ス新ニ届出ヲ爲スコトヲ要ス

第五章 懲戒

第六十五條 學則又ハ校規ニ違反シ其ノ他不都合ノ行爲アル者ハ情狀ニ因リ停學又ハ退學ヲ命ス

第一項ノ規定ニ依リテ退學ヲ命シタルトキハ其ノ旨ヲ同等學校ニ通知ス

第六十六條 品行不良改悛ノ見込ナキ者ハ退學ヲ命ス

第六十七條 前二條ノ規定ニ依リ停學又ハ退學ヲ命シタルトキハ其ノ旨ヲ父兄及ヒ保證人ニ通知ス

附則

一 本則ハ昭和六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

一 本則施行ノ際現ニ存スル第二學年及ヒ第三學年ノ學科課程及ヒ其ノ配當ハ其ノ第二學年ニ屬スル學生ノ卒業スヘキ學年試驗ヲ終ル迄仍ホ從前ノ規定ニ依ル

一 第一學年又ハ第二學年ノ學生中昭和六年ニ施行シタル學年試驗ニ於テ從前ノ規定第二十七條ニ依リ次ノ學年ノ試験ヲ受クルコトヲ得サルニ至リタル者ト雖モ本則施行後ニ於テハ次ノ學年ノ試験ヲ受クルコトヲ得但シ其ノ合格セザリシ科目ニ付テハ試験ヲ免除スルノ限ニ在ラス

昭和六年三月

東京市神田區駿河臺南甲賀町六番地

中央大學

20080390